

## 令和3年度みきっ子未来応援協議会 家庭・地域・学校教育部会議事録

### 1 期 日

令和4年1月18日（火） 19:00～20:20

### 2 場 所

三木市役所 5階大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委 員

中川義秀副部会長、百瀬和夫委員、中西千津江委員、奥野敬子委員、  
小紫昭子委員、金鹿功委員、日下部誠委員、岡本典子委員、浅和直子委員  
(欠席：計倉哲也部会長、小林誠和委員、田中啓規委員)

#### (2) 事務局

田中学校教育課課長、橋本教育センター所長、藤原青少年センター所長、  
阿部学校教育課課長補佐、伊藤学校教育課主査、藤原生涯学習課係長、  
平田子どもいじめ防止センター長

### 4 部会長・副部会長紹介

計倉哲也部会長、中川義秀副部会長

### 5 委員自己紹介

### 6 協議事項

家庭・地域・学校が一体となった人づくりに関すること

#### (1) 事例及び現状

- ・三木市の児童生徒のインターネット利用について
- ・青少年の健全育成に係る取組状況について
- ・「学校・家庭・地域の連携協力事業」について

#### (2) 意見交換

司 会： 事務局の説明についてご質問やご意見をお願いしたい。

委 員： 高校では、SNS でのコミュニケーションの誤解等、インターネットトラブルが増えている。インターネットのルールやモラルを

日常から指導している。小学生の子どもから、SNS に投稿する際に、他人の写真を勝手に撮ってはいけないことを学校で教えてもらってきたことを聞いた。小学校や中学校での取組を高校でも行っていきたい。

委員： インターネット利用状況のアンケート結果について、子どもと保護者の利用状況について関連性があるのか。

事務局： 保護者のインターネット利用状況までアンケートを実施できていない。今後、機会があれば、保護者の利用状況等の関連性について検証していきたい。

委員： インターネット上のルールや約束を発達段階に応じて指導することは大切だと感じた。

委員： 大人がインターネットについて知らないことも多い。学校で実践されている動画や資料をホームページ等で情報提供してほしい。インターネット上で危険な投稿があった場合は、見守り活動を行っている方が教育委員会に情報提供しているが、子どもたちが投稿する件数は減っていないことを聞いた。投稿することにより、トラブルに巻き込まれる危険性があるので、再度、学校へ情報提供をして欲しい。

委員： 今の子どもたちは、ネットの怖さも知り、利用している。なぜ、危険な面もあるのか、便利な面と危険な面、両面知ることが大切である。

委員： クリスマスプレゼントとしてゲームを希望する子どもが多いように感じる。ネット社会も低年齢化が進んできているので、子どもたちの現状を大人が知ることは大切である。

委員： ネットの依存が問題になっており、ニュース等で、子どもたちが陰で仲間はずれをしていることも聞く。子ども達が直接やり取りするのではなく、ネットやスマホで間接的にやり取りする人間関係が心配です。

委員： スマホを使う時間を決める場合に、親が勝手に決めるのではなく、子どもの気持ちを聞き子どもが納得して決めることが大切だと思う。親が一方向的に禁止すると、子どもが自分で決定することができない。子どもと親が話し合い、一緒に決めることが、我慢することや人との折り合いをつけること等、人間関係を築くきっかけになってくる。子どもがどうしたいかと聞いた上で、ルールを決めていくことが大切だと感じる。子どもは、学校の学習での話し合いを通して、仲間を大切にすることを学んだ。学校でも

意見交流を行うことで、子ども自身の学ぶ場が増えていると感じる。

司 会： 家庭、地域、学校がそれぞれの立場でできることや大切にしていけること、また、どのような役割を担っていけばよいかなどについて、意見や提言を出していただきたい。

委 員： 人の目の垣根隊の活動を行っている。活動している人数が減少しているので、公民館の登録等、社会貢献を考えている方に募集でできるような方法を模索していただきたい。

委 員： 垣根隊の活動を続けることにより、子どもたちから声をかけてくれたりするので、老人会の組織として参加しているのではなく、老人会の中でも参加者を呼びかけてみたいと思います。

事務局： ネット利用について、青少年センターのネット見守り隊の監視員から、画像を投稿した際に、学校名の情報がわかる画像が多いことを聞いている。そのような場合には、教育委員会と連携し、学校へ情報共有している。子どもたちが犯罪に巻き込まれる危険性もあるので、個人が特定される情報を投稿しないように注意喚起を続けていきたい。

委 員： 三木市では、ネット依存にならないように、うまく使いこなせるようにするためにさまざまな取組を行っていることがわかった。スマホに依存しすぎると、アルコール中毒と同じように脳にダメージが起こることもある。スマホを手放すことのできない依存状態の大学生もいるのではないかと感じることもあるので、幼少期や小学生からいろいろな学びを続けることが大事だと感じた。

親が子どもの顔を見て話しかけたり、抱きしめたり等の愛情を注ぐなど行うことにより愛着形成が行われる。1歳半までに親から子どもへの愛情が十分に注がれないと、愛着形成が行われにくくなる。この部分においても、スマホが影響を及ぼす恐れがあることを知っておくことも大切である。

私たちの生活では、スマホはかかすことのできないツールになっている。子どもは、スマホを使う時のルールを自分で決めることが大切であり、大人の考えを押し付けて、一方的に決めるのではなく、子どもが自分で決めていくことが、重要だと感じる。これらのインターネットのことについて、大人も子どもと一緒に考え、議論を続けることが必要だと感じる。